

1 9 6 5 年 2 月

ス氏に贈られた。

A・Cのバッジがディレンファー

数などやかに歓談、なお席上」・

きたるべき日本のエヴェレスト隊

の成功を祈る」とあいさつ、近

槇名誉会員をはじめ、会員多

2 3 7 H 本 山 岳

会

ディレ

ンファー

ス氏

の来日と講演

着いた。日本山岳会は十六日午後 十六日午後八時PAA機で羽田に レスト登山計画に協力するため米 スト隊リーダー、ノーマン・ディ 六時から丸ノ内糖業会館で歓迎会 国国務省から派遣される途中一月 レンファース氏がインドのエヴェ 九六三年アメリカ、エヴェ

出来たことは喜しい。山に登るわ んうれしく思っている」むねのあ れわれの計画のためのアドヴァイ れわれすべては良き友人である。 っているが、今度皆さんにお会い ァース氏は「日本には五回立ち寄 いさつがあり、ついでディレンフ スを得たい。今回の来日をたいへ 会にいろいろな体験を聞いて、 さまが日本にみえた事で、この機

説明した。 がら二時間にわたってくわしくア メリカ・エヴェレスト隊の行動を い、百枚余のスライドを映写しな 員丹部節雄氏の通訳で講演を行な つのあとディレンファース氏は会 項のとおり松方会長の紹介あいさ テニィ氏のあいさつについで、別

とであったが、非常に大事なお客

を開いた。松方会長より「急なこ

二十日クーンブ氷河のアイスフォ 六十センチの小男ゴンブ)が荒天 チの巨漢ウィテカーと一メートル 隊員二名(一メートル九十五セン 事故にあいながらも、ついに五月 大なクレバスを乗りこえ、不幸な ールのふもとにB・Cを建設、巨 始するところからはじまり、三月 ーによって二月二十日、行動を開 人のシェルパ、九百九人のポータ 隊員が二十九トンの荷物と三十七 一日、サウスコルから第一次登頂

リーは二代続いているのでありま

だそうです。

スト講演会は一月十九日午後六時 から銀座ヤマハ・ホールで開かれ ディレンファース氏のエヴェレ

た。アメリカ大使館人物交流部長

スライドは、隊長以下二十名の うのです。 というのはこの登山隊のファミ

るのです。 チェンジュンガの登頂を試みてい キスペディションを組織されカン たので、一九三〇年最初の国際エ でずっと学校の先生をされて居っ レンフルト博士は主としてスイス して、お父さんのオスカー・ディ なことを強調した。 ものでなく、チームワークの大切 をサポートした隊の行動につい 西山稜隊のサウス・コルへの下降 は見られないものがあった。この れ(このとき四人のうち三人まで と迫力とに富んだ報告がつづけら ヒマラヤの登山は個人の力による て、ディレンファース氏はとくに 重い凍傷に罹った)感動なくして ころでビバークするなど、 スリ

山崎安治)

松方会長あいさつ

にはディレンフルトという名前の といわれましたが、多くの日本人 交流部長)が、ダイレンファース 方が長く耳にとおった名前だと思 いまテニイさん(米大使館人物

残された方であります。いまはお 二人とも七十才を越してなお元気 な人でヒマラヤでいろんな業績を でいられるのであります。 んご夫婦ともに登山家として有名 ディレンフルト博士並びに奥さ

じめて英国からヒマラヤの舞台に ているのであります。 舞台としてその後ヒマラヤに入っ な風にいろんな人がこの遠征隊を の山に行っているのですが、そん メットとかエヴェレストとか方々 参加しているので、その後彼はカ は、スマイスなんか、このときは この国際登山隊という遠征隊

アメリカ、一つはデンマークにあ があって、一つはスイス、一つは 界に三ケ所いま同姓のファミリー いうのは一つのファミリーで、 レンフルト、ダイレンファースと ダイレンファースという発音に変 って、みな同じ一つのファミリー ってくるわけでありますが、ディ 名を持って居られ、そこにおいて カに移住されて、アメリカの国籍 ディレンフルト君はその後アメリ そしてその二代目のノーマン・ 世

前です。 父さんの代からの非常に親しい名 ヒマラヤについては大先輩の、お それでわれわれの山の仲間では

あるいはスイスの登頂とちがって 思いますが、このエヴェレストの いう長いあいだ皆が考えて居り、 西山稜からのエヴェレスト横断と 登頂は今までの二回にわたる英国 ります。あとでお話に出てくると ーとして成功をおさめたわけであ メリカのエヴェレスト隊のリーダ また問題としていた、その問題に ことにノーマンさんは一昨年ア

×

夜の暗黒とたたかいながらC6へ

る困難な岩登りを行ない、登頂後 メートルの高所でピトンを使用す

**戻る途中約八千五百メートルのと** 

談し、二十一日韓国経由インドに

二十日夜エヴェレスト関係者と懇

成功した西山稜隊については八千

のあと五月二十一日に再び登頂に の中を登頂に成功するまでと、そ

(同氏は十九日スライド講演会、

業績をあげたのであります。 取組んで見事に成功しめざましい ノーマン君と英国隊のハントと

担当者が高度馴化に慣れずに倒れ 担いで貢献しているのでありま クの最後のキャンプ設営に荷物を すが、ノーマン君はサウスコルま する次第であります。 しての業績だと思って我々は感嘆 ありますが、非常に見事な隊長と たため、止むを得ず自分は行った たのだけれども、ほかのキャメラ も高いところへ行く必要はなかっ す。彼自身の話では「自分はなに ン君の方が年が若かったと思いま かけたときの年齢はすこしノーマ をくらべると、エヴェレストに出 んだ」と謙遜して言っているので で荷を上げて、さらにサウスピー でありながら実は必ずしもそうで

リカ中からいろんな人を集めてい ろなヒマラヤ隊とちがって、アメ はいままで日本から行ったいろい 点について特に敬意を表するので 仕事であると私は思うので、その とは、これは隊長として大へんな あれだけの成果を収めるというこ 係で隊をつくるのと非常に違うの 達とか先輩後輩とか、そういう関 ですから、われわれが学校から友 ヒマラヤへ行っているというわけ であります。そういう隊を作って 遠征ではじめて一緒になって

らの人たちはアメリカに帰ってか さらにつけ加えるならば、これ

> 緒に山に登ったという因縁で非常 に親しくつきあっているというこ いるのでありますが、いまだに一 いまアメリカ中にちらばって

これもなかなかありそうなこと

ているわけであります。 くエヴェレスト隊の隊長であると るのでありますが、いうまでもな 事な成果であったと私は尊敬をす 後雪男探検隊にも加わって居り、 ス隊のエヴェレスト遠征に加わっ うことでありまして、最初のスイ ヒマラヤの経験をもっているとい いうことは、その以前にいろいろ ない場合も多いのであります。 たびたびネパールヒマラヤに入っ たり、ダウラギリとか、またその そういう点からしても非常に見

けで、我々としては非常にありが といってずい分長いこと、おそら はじめ、この設営その他について いうことになったわけでありま 機会だからみんなで話を聞こうと 日程の中であり、とにかく折角の たいのでありますが、いそがしい って、こんどはじめて実現したわ く一昨年の秋くらいから考えて居 本に招いて話を聞こうじゃないか ただいたアメリカ大使館の皆さん す。このためにいろいろ助けてい 心配していただいた毎日新聞社の そのノーマン隊長を一つぜひ日

> 今日はありあわせのものを持って るわけですが、なんにも大したお も気に入ったらあげようと思って でありますから、一つピッケルで 土産もあげられないし、山の仲間 これからノーマン君をご紹介す

事は二村君が打ったものでありま をやろうというわけであります。 ンは黒田君の設計でありますが仕 ったピッケルであります。デザイ いということなので、私はここで 来たら非常に気に入ってぜひ欲し ノーマン君に皆さんの前で贈呈式 制作はこれは二村君が自分で打

ことであります。 きながら見せていただこうという れからスライドを順々に説明を聞 大体最初に若干お話を聞いてそ

ことにこのアメリカ隊というの

うであります。(笑声) 一つ大い と思ったらどうも失敗に終ったそ 出たとこ勝負で皆を驚かすような って一所懸命で聞こうと思ったら した。それでなにを話すのかと思 でちょうどいい人物がいるという ますが、丹部君はいまアメリカ隊 に楽しみにして聞いていただきた で、丹部君がカンニングをしよう お話をしようと思うんだというの ので通訳をしてもらうことにしま の報告書を翻訳している最中なの いと思います。

X

×

方々にこの機会にお礼を申上げま

### ディレン・ファー 0 講演 ス氏

ラヤへ行く途中でいつも二三日し 回ようやく皆さんとお会いできて かいられませんでした。しかし今 話せないのは残念です。私は日本 ケ国語をしゃべれるが、日本語を ならないのは、私は欧米語なら五 へ何回も参りましたけれど、ヒマ 一番最初におわびをしなければ

ろれしく思います。 ときエヴェレストへ参りましたと メリカに帰化いたしました。その 一九五二年に私はスイスからア

通訳は丹部節雄君がやってくれ ましたが風のため撃退されまし きはわずか八百呎の手前まで行き うものがそれほどポピュラーでな 間をヒマラヤのために尽くすこと 授の職をやめ、ほとんど自分の時 私がエヴェレストと折衝した最初 た。スイス隊のときです。これが く、財政的なバックアップをいた では日本とちがいまして登山とい に費やしました。私の国アメリカ です。私はカリフォルニア大学教

だくことがむつかしい国です。幸 におこりましたのは私に幸いでし いその後アメリカでも登山熱が急 イギリス隊は一九五三年にジョ

ン・ハントの見事なリーダーシッ

チベット側からでしたが、戦後は 頂に成功したわけです。大戦前は しました。十一回目にはじめて登 エヴェレストへのルートはすべて プの下にエヴェレスト登頂に成功

とになりました。

全部南側のネパール側から入るこ

られる価値があると私は感じまし も登山者にとり、科学者にとり登 のような立派な山は何回登られて 両手をひろげ頭をひねるゼスチュ most people said why? と言い、 なぜそんなところをやるんだと聞 ころが私が三度目にエヴェレスト かれました(註、D氏はここで 登頂を行なおうとしますと、君は ラーの指揮の下に登りました。 アをする)、しかしエヴェレスト 同五六年にはスイス隊がエーグ ٤

ました。 ウス・コルに下りてみようと考え 頂上へ登って、そしてできればサ そこで私は極秘裡に西北側から

と思いました。例えば社会学、 宙科学など各種の科学に対して貢 ことならば科学的な貢献をしたい 献できることを望みました。 理学、心理学、 また純粋登山のほかに、できる 医学、それから宇 生

れますので非常につらい条件にな いろいろなストレスのもとに置か に登れるということがきわめてむ もとにおいては自分の出来るとき ります。こういった生理的条件の こういう高い山に登りますと、 えられ、あるいはナショナル・プ

ってきましてケネディ大統領に迎

レス・クラブで報告演説をいたし

最高の研究の場でもあるわけであ 者にとってはエヴェレストは世界 ずかしいわけです。と同時に科学

ないようにするようにつとめまし 定の参考にしたわけです。そのほ 空に適当であるかということの決 をおいて、どういう人間が宇宙航 究所ではエヴェレストの高所に人 学研究所の人々、その他いろいろ ェレストではそうはいきません。 ばすぐ出られますが、しかしエヴ えてみますと、実験室なら八千メ 登山と科学研究との間には摩擦が も研究しました。とにかく純粋の かに氷河学、地理学、細菌学まで わけです。アメリカのロケット研 の科学者が今回の登山を利用した ートルの気圧にしても、その中の 人は苦しくなったらベルを鳴らせ そういうわけで私どもの国立科 例えば減圧室の実験について考

わねばならないということはきわ ました。同時にそんな二つのこと めてむつかしいことでした。 学者自身にも高い所へ登ってもら う高空での研究をするためには科 う確信を持っていました。ころい がやれるわけがない、ということ です。しかし私は必ずやれるとい 多くの人々が私をひどく批判し 成功いたしましてアメリカに帰

くの世界記録をやぶったね、と言 われました。しかし記録というも ました。多くの人は、 て論理的に当り前のことのように ってまいりました。これはきわめ 行きました。友だち同士として帰 士として山へ登りました。登りに が誇りたいことが二つあります。 ん。今回のエヴェレスト登山で私 のはそう重要なものではありませ 一つは私ども隊員は、友だち同 君は実に多

ームの一つの努力に対して与えら そして、はじめから終りまでのチ く、リーダーおよび全員に対して げたいことはこのメダルが頂上に このような栄誉を受けたのははじ 行った人々に与えられたのではな めてですが、ここで私が特に申上 取りました。アメリカの登山家が ルソサイェテイからのメダルを受 行き、ナショナルジャグラフィカ 統領に招かれてホワイトハウスに

> どもは何を征服したか、いや征服 ョージ・マロリーのことばに「私 を憶えています。 勝つためだ」とこういったことば したのじゃない、私どもは自身に

す。どうもありがとうございまし でもお手伝いしたいと思っていま カ隊ができますことはどんなこと ますことに対し、私どものアメリ 日本の隊がエヴェレストへ行かれ 最後に私が申上げたいのは明年



学的な研究を、約束したとおりに ります。それと同時に私どもは科 不思議なことですが事実そうであ ってしまうのであります。非常に 高い山に登った多くの人たちは帰 ありません。というのはいままで 聞えますけれども、実はそうでは ってきますとお互いに仇同志にな れたということです。 と思います。そして明らかに人間 人の和があってはじめて登れる山 いと思います。 なエヴェレストを見ていただきた には登頂できないと思われるよう であります。 これは時と天候がよく、しかも 私はもう一度ふり返ってみたい

果してまいりました。 七月四日、私たちはケネディ大 (スライド上映)

どうもばか気た話であります。

山の征服ということをいうのは

January 19, 1965

# Dyhrenfurth 20 Tichy

ていても、戸籍謄本では多分、ア によって決まるのだと思う。然し リツネとなっているであろうか 模さんの場合、ユーコー槙で通っ 一応、本人がどう発音しているか >人の名前の所謂正しい呼び方は

る。 法的には正しくないことにな

ディレンファースと呼んでおけば ディレンフルト、ノーマンの方は われとしては親父オスカーの方は 本人の発音を注意して聴くとDyh ース、(5)ディュレンフルト。 レンファース、4ディュレンファ ト、2ディレンファース、3ダイ 呼び方がある。(1)ディレンフル が、これには少くとも次の五つの だが、彼の戸籍謄本に発音記号が つけてあるかどうかは 知らない (3)は米国大使館の人達の発音。 ところで今度来た Dyhrenfurth Düとなっていたが、結局われ

シーと発音していた。 Cの元老ファークハールもティッ Herbert Tichy だが、アジアでは >次にチョー・オユーに登った るらしい。然しアメリカではAA 少くともティッチーといわれてい 無難であろう。

der namenlosen Berge," 1954 の六頁に「アジア人にとって私の名六頁に「アジア人にとって私の名 ようだ」とある。 Parbat というのは、非凡な峰頂 難しい。 それにしても Titschi の山名としては、余り香しくない さて、Tichy の書いた "Land

ころは本人から直接聞いて知るよ 私には考えられるので、本当のと りほかに方法はあるまい。 人の発音をそのまま書いたものと ここにある Titschi は、アジア (吉沢)

ア

### 1 ヴィ ンのアックス E

山

安

治

## エヴェレスト永遠のなぞ マロリーとアーヴィンの死

とアーヴィンの登攀であろう。エ るされているものには、かならず ヴェレスト登山の歴史についてし だけに、いろいろあげられている インから述べていかなくてはなら の順序として、まずそのアウトラ 登場してくる有名な事件だが、話 の中に永久に姿を消したマロリー マティックなものは、成層圏の雲 わるエピソードは、世界の最高峰 マウント・エヴェレストにまつ 何といっても、いちばんドラ

として人類の挑戦をしりぞけたば 呑んだのだった。一九二四年六月 かりでなく、二名の隊員の生命を られていた。しかしこの巨峰は頑 こそこの山は陥落するだろうとみ 登山隊は、ブルース将軍を隊長に 八日のことであった。 精鋭をすぐってくり出され、今度 イギリスの第三回エヴェレスト

マロリーとアーヴィンの第二次登 攀隊はこの日の朝第六キャンプを ルの第一次登攀隊につづいて、 失敗に終ったノートンとサマヴ 頂上に向ったのだが、そ

ょうどその日、第五キャンプから のまま消息を絶ってしまった。ち

ポートに登ったオー

デ ル は

かれているが、東というとカン

2 トラブルがあったのかも知れなか っていたのである。途中でなにか では東北山稜上のセカンド・ステ とふたたび見ることはできなくな マロリーとアーヴィンの姿は二度 北山稜のステップ直下の雪面を繋 雲の幕が上がり、頂上につづく東 ップには八時までに着くことにな いう遅い時間で、マロリーの予定 すぐに雲がこのシーンをかき消し ステップを登っていった。すると てゆき、次いで最初の人影がその が、最初の人影のところまで移っ めた。見つめていると二番目の姿 じ登って行く一つの小さな姿を認 二、六〇〇〇フィートの地点で、 た。しかし一切が謎であった。 た。時刻は午後十二時五十分と

第四回エヴェレスト隊 の拾ったアックス

ップの東二百五十ヤードの地点と 七ページ)にはファースト・ステ 約二百二十ヤード西北 の地点= 東北山稜の稜線まであと六十フィ とウェイジャーが、五月三十日、 しい手がかりをもたらしたのであ 第四回エヴェレスト登山隊は、新 「エヴェレスト一九三三年」(一三 ト、ファースト・ステップから それから九年後、一九三三年の 第一登攀隊のウイン・ハリス

ろいろな問題を提供するようにな この一本のアイス・アックスがい 落ちていた場所は褐色の滑らかな あった。このアイス・アックスが なアックス作りであるテイッシュ ったのである。 ぐ下からかなり急になっていた。 のウィーリッシュ作と銘が打って スイスのツェルマット渓谷の有名 した。光っている鋼鉄の頭部には る一本のアイス・アックスを発見 きたとき、先頭のウイン・ハリス ステップの西北の地点である=に が、完全な状態で全く新しく見え 側であり、明らかにファースト・ ックスの発見地点は東北山稜の西 枚岩で、傾斜はゆるく、そのす ージ対の写真で示されているア

ると確認されているので疑問 こが登攀不可能に近いところであ る。そしてオーデルがセカンド・ ないはずで、このアックスがアク るとしている。 ステップでみたということは、 れるということを明らかにしてい シデントの場面のしるしと考えら を登る登山者である以上、アック スを途中に残して登るという者は 察を行ない、エヴェレストの北面 ーダー、ラトレッジはくわしい考 点にもとづいて、一九三三年のリ このアイス・アックスの発見地 であ そ

第二次登攀隊の彼とシプトンが第 またスマイスは、一 九三三年 0

書の一〇八ページ、および一八八 シュン氷河側となりおかし 同 誤認したことから、オーデル(第三 ン・ハリスとウイジャーの二人と ど日本の登山界に紹介されていな た大変に興味深い。これはほとん のオーデルの意見というのは、ま されているが、これについての当 根吉郎氏が山第二号(交通公社版) いと思うので、アルパイン・ジャ れたのではないかといっている。 ップ付近の雪面にある岩をウイ ーナル第二四九号(一九三四年十 に独自の見解を加えた論文を発表 次隊員)も同様にその岩にだまさ 一月発行)の会員通信欄からその 六キャンプ近くでセカンド・ 以上のことは、かって詳細に関 ステ

要点を書きぬいてみたい。 オーデルは、はっきり自分の眼 オーデルの見た二人の影

と、強く次のように主張してい で見たのであって、錯覚ではない

は思えないし、とオーデルは憤慨 にこっけいであり、正気の沙汰と というものにいたっては、まこと の飛んでいるのを見たに過ぎない 山のフェースを横切った岳ガラス の意見として、自分がたんにその い。しかし、ロングスタッフ博士 しているが、それは問題にならな のではないか、とほのめかしたり め去る雲を人間の行動と誤まった している。 ある人は、自分が岩の上をかす

そして、 「ザ・ファイト・フォア・エヴ 彼は、二人の人間の姿

を軽蔑し排斥していたが、今は登

はスキーをやらず、むしろスキー

山家でスキーをやらぬものは

な

エルゾ

IJ ス グ氏のことば 日高信六郎

から次のように答えている。 らの質問に答えて「わたしは当時 説を真実と思うか」という数人か ばの二つ三つをしるす。 を握って、器用にサインをつぶけ た凍傷のため指を失った手にペン 訳書に、アンナ・プルナでかくつ 次々にさし出される自分の著書や ゾォーグ氏歓迎茶会は、ヒマラヤ る日本山岳会のモーリ 談笑した。長身で礼儀正しい氏は しを受けた芝生の上で氏を囲んで とアルプスに縁のある会員が日ざ 「中国登山隊のエヴェレスト登頂 そのとき耳にとまった氏のこと 十月十六日国際文化会館におけ ス・エル

えられるのは、当時、

ほとんど普

まなかった、とはっきり述べている人がいっているごとく "つかの間の出来事"ではなく、その人間の出来事"ではなく、その人間の出来事"ではなく、その人間の出来事"ではなく、その人間の出来事"ではなく、その人間の出来事"ではなどとがいっているごとく "つかの間の出来事"ではなく、というない。

二人は東北山稜の上にある岩場の目撃した模様と、それに関するの目撃した模様と、それに関する

年)スマイスとシプトンが登攀か 例証とはいえず、昨年(一九三三 望が進んで思考となった。という を見誤ったと信じ込んだケースと ら引き返すハリスとウェイジャー 人によって指摘されたごとく。希 られなかった。この現象は、 あるいは二人だったのか見きわめ で立ったのが、一人だったのか、 その特色ある形の岩の上にその後 し、また再度雲にとざされたため ド・ステップか確認できなかった ファースト・ステップ かセ カン に上り、遠近がつけられたため、 の光景はわずかな間、雲がきれい 動いていった。しかしたまたまそ の一つの基部の小さな雪面の上に

な低い地点をまだ登っている二人になかった。予定より遅く、そんになかった。予定より遅く、そんりなかった。予定より遅く、そんりなが見えるといったとは念頭が、シールので、マロリーとアーカれていたので、マロリーとア

う可能性は疑う余地がない。

ーもっとも可能性があると考

った。 を見た自分の驚きは非常に大きか

## アックスの発見地点

る途中でのアクシデントのしるしる途中でのアクシデントのしるしる途中でのアクシデントのしるした。アックスの発見地点は、ファーヴィンを見たと思ったのは、アックスの発見地点より上であった。アックスの発見地点はり上であった。アックスの発見地点は、ファースト、あるいはセカンド・ステースト、あるいはセカンド・ステースト、あるいはセカンド・ステースト、あるいはセカンド・ステースト、あるいはセカンド・ステースト、あるいはセカンド・ステースト、あるいはセカンド・ステースト、あるいはセカンド・ステースト、あるいはセカンド・ステースト、あるいはを関がある人から出さい、という見解がある人から出さい、という見解がある人から出されている。

ロープは結ばれていたかで、二人はロープを付けていなかったか、付けていたのではないかとないう確率性を信じている。ハリスとウェイジャーは、この地点で、ロープの必要性はないる。ハリスとウェイジャーは、ことを発見していた。したがってマロリーとアーヴィンの登攀中にもその必要はなかったのではないかという点を見落してはならない。ロープを付けていなかったとしたら、一人がスリップしても、い。ロープを付けていなかったとしたら、一人が報告に戻ってくるとい

なり、二人の運命を調べるすべは 分にあり得る。この場合はカンシ ュン氷河に向って墜落したことに たかも知れないという可能性も十 ド・ステップから引き返そうとし 隊によって明らかにされたが、二 スの岩峰では、いつも行なわれて よってはあり得ることで、アルプ を一本残すということは、 ついては、昨年(一九三三年)の ようである。パーティがアックス ないアーヴィンとみるのが妥当の よりアックスを使用することの少 へまわりこむことは非常にむずか 人はここからエヴェレストの北面 セカンド・ステップの困難性に いとみて、東面をまき、セカン 場合に

どうにか二人は良好のコンディションのもとにセカンド・ステップの難場を乗り切り、実際に頂上プの難場を乗り切り、実際に頂上プの難場を乗り切り、実際に頂上が、あるいは頂上近くのは信じたい。

残されたままになっていたのであたものとすれば、たまたまそこにアックスを登る際に置いていっ二人は頂上へ登った?

りにまた持ち帰るように決めたの 通と変らない状態での岩登りだっ それは岩登りの場合に、マロリー ではないかということであって、 際に山稜上にアックスを残し、下 たので、二人のうち一人が、 とで、アックスの発見地点から二 けていたということはあり得るこ あてるのは不可能である。しかし 命がどこであったのか明確にいい の隊をはじめ他の隊員たちによっ 二人が暗くなったためロープを付 て主張され、支持されている。 人が墜落したということは、 アックスの場所から二人の運 昨年

年の歳月はすべてを洗い流し、 れたルートをよく示している。 の変遷と、各登山隊によって選ば ジオグラフィック・ジャーナル第 ずである。一九三四年一月発行の 録の六ページ対面の写真は、情況 八十三号のラトレッジの書いた付 注意深く探さねばならなかったは いた。彼らはもっとほかの証拠を れを発見したという報告を受けて しかもウェイジャーとハリスがそ 発見地点の直下を通過しており、 しなかったというのはふに落ちな の下方で惨事の何のしるしも発見 い。彼らは登降に際してアックス かし、スマイスとシプトンが、そ 衣 九

の変遷と、各登山隊によって選ば や学界にの変遷と、各登山隊によって選ば や学界にの変遷と、各登山隊によって選ば や学界にの変遷と、各登山隊によって選ば や学界に付きとどめていない。二人の遺体 膜さんなばされ、アクシデントのこん跡は フランスにされ、アクシデントのこん跡は フランスにされ、アクシデントのこん跡は フランスにされ、アクシデントのこん跡は フランスに落下してしまったのであろう。しかしエヴェレストの全般的 に傾斜している凹凸のあるフェーと、和気を向かどうか、きわめて疑がわって訳するのかどうか、きわめて疑がわって訳するのかどうか、きわめて疑がわって訳するのかどうか、きわめて疑がわ は込下と

を付し、若い人たちは先ずスキーをはいいし、じめ、それからだんだん山好きにいい。 じめ、それからだんだん山好きにの運しく、若い人たちは先ずスキーをは

「あなたは、スタンダールがお好きだと云うことだが、今でも読んでいますか」との深田さんの問いに応じて「今でも好んで読んでいると同時に力強さがある。そこがあると同時に力強さがある。

仏文学者で早大山岳部長の河合さんが登山やスポーツと青年につさんが登山やスポーツと青年についてたずねたのに対して、味わうくしはとなりのお嬢さんとの会話に気をとられて、聞きのがしたのは惜しかった。

松方会長の歓迎のことばに答えて、氏は最近数多くの日本隊がヒマラヤに出かけ、新しい高峯をいくつも "発見"して世界の登山界や学界に貢献したことを推賞し、日本山岳会の歓迎を謝し、その隆昌を祈ったが、その中で氏の来日以来一切を世話し、当日も流暢なフランス語で通訳の労をとった近藤さんを"わが親しい岳友近藤"と呼んで話した一句を、近藤氏が通訳しようとせぬので、他人が代って訳するという景物があるなど、和気あいあいたる会合であった。

お払込下さい
お払込下さい

## 静岡県支部・もみじ会」に出席して 絵と文 川喜田 壮 太 郎



ど歓迎に出られ、酒と焼肉の焚火 て接待、井川村からも滝浪議長な 支部の皆様はJACの印絆天を着 かって、とても寒い夜でしたが、 の串焼、 樺荘に着、夕食は野天でロース肉 に身も心も温まりました。 四時ごろ、畑薙第二ダム下の白 新雪の山の上に半月がか

はぜひ来年もつづけて下さい、と 本尊を迎えての「へそまがり論」 参の場合も会費はとっていただく 申込んだ以上は必ず来ること、不 いう決議成立、付帯決議として、 に話がはずみ、こんな愉快な会合 ことなどをわれわれから申し出ま

と、全員は支部の皆様の案内で井 さん一行を途中まで見送って新雪 川峠を越えることになりました。 の仁田岳や上河内岳を眺めたあ 翌十五日も快晴、光岳への藤島

線組も合せて県差廻しのバスで富 中、岩永信雄氏も加わり、同じ同 士見峠を越えて井川に向いました 元の方々に迎えられ、先着の新幹 静岡着、山本朋三郎さんはじめ地 生だと意見一致しました。十二時 の方が人間としてよほど幸福な一 りも、こうして山に行ける岩永老 級生でも総理になった佐藤さんよ 松本義夫さんと東京駅で一緒にな 十一月十四日朝、私は藤島さん、 九時の準急にのりました。車

ながら、一

食後は近来天下公認となった御

過ぎに釣橋を渡って峠路に入りま とつ休止の理由になって、 葉が美しい」ことだの、 した。途中では「大無間が見えた」 だいて富士を眺め、下りは思った いたのは午後一時でした。 だの「あれが聖の頭だ」の、「紅 峠では、お赤飯のお弁当をいた バスで井川ダムまで下り、 ひとつひ

した。 られる皆様と別れて梅ヶ島へ向い 女子のお尻について、午後四時、 ンドン下られ、私は紅一点の村井 ました。日頃の歩行不足を後悔し バスの待っている孫佐島に下りま よりつらく、お元気な神谷老はド そこで私だけは静岡、 東京へ帰

峠から孫佐島まで一万二千歩で した、歩数計で (井川釣橋から峠まで一万歩、

## 〇参加者氏名

崎金次郎、中村 謙、原田幹市、 佐藤佳年、鈴木英一、小野利次、 米子、野口末延、松本義夫、今井雄 島敏男、岩永信雄、一柳兵象、 野衛ほか一名、川喜田壮太郎 建石八重、沼倉寛二郎ほか一名、 二、池田光二、松本熊次郎、神谷恭、 村井 牧 藤 Ш

滝浪善一ほか九名(以上県内) 県観光課長ほか四名、井川山岳会長 亮、鈴木璋一、尾崎静岡県観光協会、 野弘、水野公男、長田義則、柴田昌 荻野恭一、岩永安雄、川端信治、市 花園一郎、山本朋三郎、石間信夫、

### 佐 渡ヶ島 紀行

# —越後支部記念登山

と感心した。 氏は令夫人携行。山岳会にも新し 加した。神谷、野口、折井君の三 若いところでは小生や折井君が参 して行なわれ、東京からも日高、 る。今年は十一月の一日から三日 化祭記念登山というのをやってい い思想がふきこんできているもの 神谷、野口、足立の各長老及び、 渡金北山、どんでん高原を中心と 越後支部の人たちの間で毎年文 佐渡山岳会のお力ぞえで、 佐

キを見学しながら、新鋭おけさ丸 も大変な御好意を頂載した。 員諸氏のお世話で、佐渡汽船から に便乗。藤島、斉藤、室賀氏ら会 新潟地震のまだ生々しいコンセ

どんでん山の国民宿舎、大佐渡口 直ちに新潟交通のマイクロバス てくれた。 れがまたひときわ山を美しく見せ たため歩き出した頃からガスにな ッジに登る。ここで小憩、どんで って視界はきかなくなったが、こ ん山は歩いて越える。小憩しすぎ (これも同社のご好意による)で 盛大なお出迎えを両津港で受け

(以上県外)

府の入口にあたる入川に下山、 途中からまたバスに乗り、外海 会

上げたい。詳しいことはいずれペ び、佐渡の方々に心から御礼を申 前を挙げないが、新潟支部およ 事新潟に帰着した。いちいちお名 三日昼両津港を出帆、海路平穏無 去るに忍びないものがあったが、 たちの非常なお世話になり、島を づいたが、余り金目の石を拾った ども見学してみんなすっかり「石」 ラインを相川に下る。金山の跡な り気をよくし、佐渡自慢のスカイ 山頂付近では雪に降られてすっか 間がないので車で早朝出発。金北 ら先は歩くのが建前だろうが、時 けにまたひときわ楽しい。ここか かったが、ここは金北山が近いだ だから佐渡の変り様もはげしい。 登る。これも昨日のマイクロバス にある新しい国民宿舎、白雲荘に ンを改めて……。 人はなさそうだった。 昨日のロッジも展望はすばらし 佐渡山岳会をはじめいろんな方 (渡辺公平)

## 九六四年度

#### 年 次 晚 餐

区大塚の茗渓会館で開かれた。年 雨の夜が多かったものだが、今年 次晩餐会というと不思議に歳末冷 恒例の年次晩餐会が十二月二 会員多数の出席を得て、文京

席者も年ごとに増大して地方から れた。特に今年海外へ出かけたつ 成名誉会員、そのあと司会者の指 司会は深田久弥氏、松方会長のあ ぎの隊からそれぞれ簡単な経過報 名で次々と楽しい卓話がつづけら いさつのあと乾杯の音頭は鳥山悌 は賑やかに交歓のろずが巻いた。 の珍らしいお顔も見られ、大広間 は晴れて外は冬の星空だった。出 られた。 告とともに謝意のあいさつがのべ

をへて金北山の山腹八〇〇m付近

翌日は早朝出発、相川、真野など

員のお宅である旅館に一泊。

向一陽氏、千葉大(ヒマラヤ)島 村治朗 · 錦織英夫氏、長野 岳連 澄夫氏、学習院大(ローガン)川 (以上順不同) (ギャチュンカン) 古原和美氏 東京外語大(ボリピアアンデス)

▽当夜の出席者氏名(到着順) 隅に陳列された。 蔵書、関係文献多数がホールの 高野鷹蔵氏を偲び遺品、著書、愛 去る九月二十八日に亡くなられた なお当夜は図書委員会の尽力で H

男、中 保、小里頼忠 (信濃支部)、中 支部)、深田久弥、望月達夫、藤島敏 中田勇(富山支部)、高山忠四朗(信濃 支部)、大橋晋、鳥山悌成、小林義正、 河野幾雄、小沢武磨、斎藤平七(越後 早川義郎、蓮田清、山内巌、高橋照、 心一、美坂哲男、向一陽、村尾金二、 松方三郎、菊池文雄、山口健児、山本 末延、藤島玄(越後支部)、 治、足立源一郎、徳久球雄、小方全弘、 川須磨子(同上)、松本善二、麻生武 朋三郎(静岡支部)、松本熊次郎、坂下 (越後支部)、牧野四子吉、牧野文子、 三田幸夫、村井米子、神谷 恭、野口 井口正男

則、松井芳隆(以上一五五名)

学)、小野素志(同上)、中屋健一、牧 武藤晃、岩永信雄、宮本忠(駒沢大 三郎助、田辺主計、黛治也、杉浦耀子、 稲田房子(信濃支部)、島田巽、田口 小野尚俊、斎藤清太郎、太田敬、諸岡 利、外山義夫、隈部恵子、岡村治信、 (山形支部)、鈴木英一、村井田博、吉 元之助、川崎精雄、安彦六郎、佐藤久 君島久登、田中栄蔵、河村栄二、鶴岡 佐藤隆太郎、山崎安治、古原和美 武正子、吉坂隆正、吉沢一郎、瀬名貞 (同上)、倉島正吉 (同上)、後藤幹次 一次、松本義夫、三辺夏雄、尹官炳、 一郎、室賀輝男(越後支部)、望月力 字田川久太郎、折井健一、字田川久太郎、折井健一、

田中正智、 上)、高橋進、辰沼広吉、芳野赳夫、 川村治郎(学習院大)、錦織英夫(同 田数馬、黒石恒、鈴木文子、木村利人、 早坂礼吾、織内信彦、野田憲一郎、藤 多子、中河与一、高野実之輔、平田正 子、片桐理一郎、岩崎京二郎、細川沙 澄夫、竹内正己 (千葉岳連)、佐瀬 洋 鈴木和信、山下一夫、坂倉登喜子、須 寬次、篠田軍治、日高信六郎、大森董 土肥愰子、小原勝郎、深堀鉄男、竹田 昭、加藤元一、岡本丈夫、遠藤禎一、 (同上)、飯野亨、茶谷東海、川森左智 田紀子、今井嘉道、平山善吉、古沢肇、 秀純、爪生謙吾、進藤波男、山田勇、 鈴木昭、木下是雄、沼倉寛二郎、小味 雄、浜田一馬、奥川雪江、長谷部昭久、 勝田房二、笹山清、池田恒雄、 松、辰口幸子、松田雄一、村木潤次郎、 錦織保清、小泉満、網蔵志朗、田崎市 三代沢本寿(信濃支部)、

# 昭和四十年度通常会員総会

に行います ルームにおいて(東京支部総会も同日 四月二十四日(土)午後二時、 本会

> 高野鷹蔵氏を偲ぶ 「この一本展

<出品目録> 図書委員会

送別会

駐日インド大使

〇アルバム ○食事と病歴記 昭三四、一、一-三五、二、三 影(額入)

〇水彩画 小諸附近 ○巣引から輸出までカナリヤ新飼育 ○カナリヤ副業読本(昭二七) ○かなりや飼育の要領(昭二四) ○小鳥の飼ひ方叢書飼ひ鳥七講(大 法(改題)(昭三一) **茨木猪之吉作** 

○愛蔵書

野衛、伊藤博夫、川崎巌、藤原武夫、

森本智津子、田村扇一、今井雄二、島

○レコード 長唄京鹿子娘道成寺 Birds London 1788 An Easy way of Breeding Canary ニズム等執筆掲載号(細目略) ○博物之友・山岳・会報・山・アルピ ほかカナリヤ関係洋書五冊 高山深谷 第一輯~第八輯 「高山深谷と対面」自筆原稿 (唄、松永和風)(以上高野家)

○出版協力書 警醒社出版 「蝶類名称類纂」 (署名入) 明四〇

山岳写真史ノート(二)その他 ○著者より高野氏への献呈本 絵と風景画、木本光三郎 吉野群峯 日本山水論、日本アルプス四巻、浮世 稿「続スウィス日記」(函入)小島烏水 と用具の変遷、岳人 N一七八 ○高野氏の事蹟に触れた本 山学文学 安治 剣の窓、西岡一雄 登山の小史 ○高野氏を偲ぶ書翰 多数 (細目略) 山川 黙 原色高山植物、 辻村伊助 スウィス日記(梓版)・遺 熊原政男 登山の先駆者たち、山崎 以上図書室及び会員出品 小島烏水 日本

松方会長の送別の辞に対して、「いつ い、落ちついた一刻であった。 なうちにも、別れを惜しむにふさわし ている。」と答えられるなど、なごやか て、高い山を登る日のあることを夢見 の日か、日本とインドの合同隊によっ は、有志によって、送別会を催した。 び離任することになったので、本会で 場所 麻布、国際文化会館 日時 昭和三十九年十二月四日 メロトラ駐日インド大使が、このた

出席者 メロトラインド大使御夫 浦耀子、谷口喜久子、小方全弘、田 堀田弥一、吉沢一郎、辰沼広吉、杉 ジエラス商務担当一等書記官、メタ 妻、デキスト情報担当一等書記官、 中源治(毎日新聞社ヒマラヤ事務局 三田幸夫、渡辺公平、日高信六郎、 長)以上十七名 陸海空軍武官、松方三郎、槙有恒、

# 号

◆図書紹介……………………………10~1三 ・東京支部スキー講習会……… ·東京支部会務報告…………… 駐日インド大使送別会……… エルゾォーグ氏のことば・…… アーヴィンのアックス(上)… と講演……………………]~] ディレンファース氏の来日 一九六四年度年次晚餐会……… 越後支部記念登山・佐渡……… 静岡県支部「もみじ会」………

ヒマラヤン・ニュース……… 

ガネ、山気

HIT

行くトラックをもっている。寿岡

此地方の精通者で、

泡滝ダムまで

## 通

## 信

Ħ あ ちこ 5

玄

山ホテルと通過して大越峠をすぎ

峠の東側のブナの原生林の紅

朝

機軸について助言があった。 の石井貞吉さんから、地図の一新 や湯田川温泉をまわり、 郎さんのお世話になった。楠公廟 岡駅におり、山形支部の村上勝太 雨具と地図だけのほんの軽装で鶴 朝日連峰案内図の資料蒐集に、 夜は来訪

峰だと思った。 の関係上割愛するので、惜しい岩 初めて認識する。案内図には位置 雨空を鋸歯状に裂く岩峰摩耶山を て、落合から大鳥川に入り、朝日 ブ。本明寺の即身仏ミイラ堂をみ 道と関係の深い尾浦橋を渡る。 十月十三日 月山山麓をドライ

公園管理員の佐藤義三郎さんは、 け、荒沢ダムの鯉料理、湖畔は秋 和の紅葉を楽しむ人で一杯だ。 倉沢の鉱泉、八久和ダム道を分 高岡の朝日屋が今夜の宿。国立

辰 沼 ろうか 臭 虫 のおびただしい のがあった。この夜から繁殖期であ と繁岡の故老を訪れ、多大の収穫 と、名産ナメコと、岩魚料理の連

民家の構造で有名な田麦俣、湯殿 向う。ミイラ仏の湯殿山大日坊、 宛字を判明した。 古名、深谷現ノ池は深薬研ノ池の 場の工藤清正氏と対談、大鳥池の 続には弱った。 村上さんの迎えの車で大井沢に 翌日バスで落合へもどり、村役

越風で充分に発色せぬ間にむしり 泥の中へ真逆様に突つこんでゆく とられて見られぬ色である。 越後山脈の西側では、日本海の卓 ようだ。この鮮かな紅色朱色は、 炎が限りなく拡がって、岩絵の朱 葉は天下の壮観である。 雨上りの白霧の中へ燃え盛る火

で賑いながら昔の面影を残して、 山登拝の重要拠点も、今はバスで なにか心のひかれる処である。 も春の山スキーや新コースの開拓 通過となり寂びしそうだ。それで の五色沼の寺院跡に立つ。出羽三 建築中の国民宿舎をみて、 志津

歩いている。村上さんも泊りとな 田忠儀さんがいる。槇さんのお供 て、朝日・飯豊・北アルプスを 大井沢には国立公園管理員の志 ストーブを囲んで語る。

> 姿をひろげてゆく。村上さんは大 独立して新築されてあった。 り、自然博物館も学校の教室から 代って朝日連峰の登山根拠地とな の山々が霧の中から次々と真紅の 今朝の雨が止み、寒河江川対岸

さんは、国立公園管理員で、 食塩泉に浴した。主人の佐藤政雄 たが、ランプの灯で炭酸を含む弱 した車道が建設中だ。 小屋の管理も兼ねている。 古寺鉱泉は電話開通の日であっ

という珍らしい石碑もみた。 濃くなると谷も開け、草木供養塔 ぶされ、冷たい雨にけぶっていた とこの在り方について聞いた。 教場で、美しいスライドを見たり、 大井沢峠を越して帰って行く志 神通峡の岩も水も紅葉に塗りつ 思わぬ探勝となった。緑が

を訪れ資料を借りて宿屋に寝た。 町で佐藤さんと別れ、宮宿町役場 好などと奇妙な地名をすぎ、 厳めしい今野久司さんの家に泊っ た。小高い岡に城のように白壁の 田さんと別れ、青柳の村落へ入っ た。老は朝日連峰の開拓者の一人 翌朝はバスに乗る。十八歳や顔 昔話はつきようとしない。 、左沢

いう過去は夢で、今は一人の通行 沢も三山行者が二万人も泊ったと 人もなくなった。しかし、月山に

日寺跡をみて帰る。志田さんと古 寺鉱泉に向ろと、地蔵峠を頂点に ばしてくれた。

ヤくこと。

(昭和三十八年秋)

砥

石山

んててんでないじゃないかと、ボ していたが、車中の客は、紅葉な

三人で下ることになった。古寺分 今日は小雨をおかして神通峡を 往路を宮宿町に戻り、荒砥行き

食い違いがあったのだ。 地元の案内人と地図作製者の間に へ遠いと記述しておられるとおり を発見した。吉沢氏は沢から主稜 は、全部が二沢上へずれている事 二〇年第一号の吉沢一郎氏の地図 ら野川源流の様子を訊く。山岳第 すぎで、荒砥だけ通過となった。 と思った時は、土曜日の退庁時間 の所在地と知らず、さあしまった のだが大失敗をした。白鷹町役場 の汽車に乗った。翌日に気付いた ダムに沿って荒砥から長井市行き のバスに乗る。最上川の長い上郷 十九日は長井の岳人黒沢さんか

山登拝路の要所で興味深い処だか て朝日鉱泉に向う。木川は昔の三 渡るのを見に下りてみた。 ら、黒鴨からの道が朝日川を橋で 十八日は快晴。 ジープを飛ばし

でいるのは、単純で明快で、いま 秋らしい色彩を段々に染めた鋭峰 に大朝日岳がすっくと聳え立って までの陰欝さをいっぺんに吹きと を、雲ひとつない蒼空にはめこん いた。肩にかすかに新雪をまとい 猿渡ダムで下車すると、 真正面

> けに資料は充分にある。 た。奥三面がもれたが、

荒川峡温泉郷は、紅葉客で混雑

語れば得る処は甚だ多い。 でとおっている。やっぱり会って のボスで、鉄砲は早いが、筆不精 立公園管理員だ。この地方の熊狩

二十日午後、帰宅の汽車に乗っ

越後側だ

女の人が洗っていた。 秋日和を惜しむように、ナメコを の方の宿の二階で休む。川辺には のと、およそ反対である。ランプ ない。昔が懐しかったなどという 朝日鉱泉は、何も特別変ってい

C会員に、独乙山岳会員の青年エ 幌近郊の砥石山へ文字通りスキ 加えて、一月十七日の日曜日、 ーバーハルト・ヴェー ニ ガ ー 君 (Eberhard Weniger) を客員に 金光、朝比奈、私の三人のJA スキー・ヴァンデルング 札

(8)

時間余りで頂上に達せられる。 電の終点円山公園からいそげば三 百米余りである。しかも札幌の市 ヴァンデルングとしゃれた。 それにもかかわらず、 砥石山という山は標高たった八 市電の終

ープで徳 れでもその山ふところにはいって て、いささか明るくなったが、そ がにこの頃は大木が大 分 伐 られ 州なら二千米級の山である。さす 点から一時間も歩けば、もう全く た日曜日だというのに、 からは、風もなく実に美しく晴れ 深山にはいった感がある。まず本

小国町役場へ出て、

ジリ

へ行く。伊藤五左衛門さんも国

いヴァンデルングであった。 ルしながら、我々一行だけの楽し た粉雪の上を代わる代わるラッセ スキーヤーにも会わず、昨夜降っ 陽光が輝き、枝々に雪をのせた

きを避けてそのすこし手前の斜面 の上で昼食をすませて帰途につい まれた白い姿を見せていた。 ブッシュくぐりのひどい頂上行

山、烏帽子岳などが近々と森に包 の左手の方には手稲から、百松沢 に暑寒別の山なみが白く輝き、そ 樹々を通して、遠く石狩湾の彼方

聞きながら、ビールでシーハイル うことだが、新雪の中のわれわれ ということで、この日の札幌近郊 のヴァイオリン・コンチェルトを かけたのに午後三時にはもう自宅 キーを楽しんで、朝九時すぎに出 のスキーの怪我人は何十人とかい の乾杯をしていた。 のストーヴの前で、モーツァルト 行は心ゆくまで山を味わい、ス スキー人口は年々ふえる一方だ

るつもりでいる。 さんをつれて、独乙語の教師とし かな楽しい山歩きも大いにすすめ もりだが、札幌日帰りの近郊の静 から十勝や大雪なども案内するつ て北大に赴任した人である。これ ュネーヴ生れの奥さんと幼いお嬢 ヴェニーガー氏は昨年九月、 ジ

完全にアイスバーンになったニセ コアンヌプリの頂上を越えて彼を 暮れには、ひどい風雪の中を、

手に太平洋を見わたす幸運を得た 案内したが、頂上に達するととた んに雲海の上に出て、羊蹄山の右 ことであった。

## 「高貴な女子」という 高山植物

吉

うである。 時的のや継続的のものが流行のよ てスキー学校、登山学校など、一 種類の学校があるが、近年になっ 等々、際限がないほどいろいろな 校、服飾学校、タイピングの学校 俳優学校、ダンスの学校、美容学 がては職工学校、職業学校から、 うな技術を教える学校が出来、や 医学校、砲工学校、乗馬学校のよ る所にきまっていたが、後には軍 昔は学校というと、学問を教え

ない。 とき浅学の者には、全く理解でき あるが、これは何の意味か、私ご EDELWEISS と横文字が書いて り、その上に、外国語氾濫時代に ヴァイスの実物標本が貼ってあ うものを見ると、表にはエーデル ふさわしく ECHTE GEBIRGS その登山学校の一つの校章とい

スユキソウなどの同属の植物を産 ハヤチネウスユキソウ、ミヤマウ いろいろな解説が述べてある。そ ると、エーデルヴァイスについて してー「日本にもウスユキソウ、 これはまだよいとして、裏を見 なかでもミヤマウスユキソウ

る。」一といいながら、その標本を 英語の名がありそうなものだと思 いうのもおかしなことで、別に あるが、第一英名がドイツ語だと 名は EDEL-WEIB だと書いて 英名は EDEL-WEISS で、 を指摘すると、エーデルワイスの 料簡か、甚だ不可解な話である。 校章に貼っておくのは、どういう この校章でもう一つ分らない点 何れも日本では採集禁止であ 独乙

Bとするので、それを読みそこな り一。散々考えた挙句、多分ドイ そこでドイツ語に堪能な友人に尋 いたが、どんなものであらう? ッ字で書いた場合、語尾の SS を のような名のあることは、未だ曾 ったのだろうということに落ちつ ねてみたが、首をひねるばか 語には違いないが、あの植物にそ て見たことも聞いたこともない。 前記の EDEL-WEIB はドイッ それはさておき独乙名だという (四〇、二、二)

#### 谷 0 オ ヂサン

四

野 治 良

四谷の高橋のオヂサンが逝くな

とかで入院したが、まもなく退院 と思っていたところ、急に訃報を されたと聞いたので、元気なこと 昨年の夏どろに持病の腹の病気

は最もエーデルワイスに似ている クであった。 うけたのは私にとって強いショ

修太郎氏夫人はオバサンなのであ ぐに、四谷のオヂサンの家で最初 昭和七年ごろ、私が東京に居を構 く、二つか三つの年上なのだが、 いくつも隔たりがあるのではな いったところで、本当は私の年と 氏は、四谷のオヂサンだったし、 寄りの者にとっては、 に出逢ったとき以来、私や私の身 えて(注、好日山荘、東京店)す

とのつきあいを三十幾年も続けて あってきた人々も随分多いことと うな気分で、オヂサン一家とつき きた私たちだが、ほかにも同じよ このような感じでの、 高橋一家

とを私はやめよう。

に甘えて「じゃまたあとでー」と かヌーボーとしたオヂサンの風格 と言えよう。そして円満で、どこ には、そういうつきあいがあった りわけ、戦前戦後すぐの部員など 各大学の山岳部〇Bの方々、と

ッ のことやら?という山岳部の猛者山を歩いたが、支払いの方はいつ 持って一目散に駅へかけつけて、 ばかりに出来上ったばかりの靴を

も索莫としたものになってしまっ された私には、この人世がいかに がこの世を去られ、いままた高橋 縮だが、昨年の二月のはじめ のオヂサンに先立たれて、取り残 が忽然として急逝され、そのあと は、私の恩人、大阪の西岡一雄氏 一ヶ月を経て、京都の梶原信男氏 いささか個人的なことがらで恐 K や、せがれどもをネンネコでおぶ まくっていた若いころのオヂサン クリンカー鋲を、ポカスカと打ち かなり手を焼かされていた様子で 連には、ヌーボーのオヤジさんも って、そばでお茶を入れて下さっ

鉄の靴台に、革底靴をはめて、

高橋のオヂサンは、オヂサンと 高橋修太郎 ことだろう。これ以上にこと新し った多くの方々にもそれぞれある 私にも数多くあるし、またつきあ と本当に哀惜の念に堪えない。 人生を楽しもうというときに…… ようだったし、これからますます 成長しすっかり店をまかせていた のせがれどもはそれぞれに立派に かに目に浮んでくるが、最近はそ たオバサンの姿などは、まだ鮮や くそのオヂサンの思い出を書くこ いろいろなオヂサンの思い出は

の人々の心のなかに、永く残して す店を盛大にして下さいと励まし して、せがれさん達と共にますま 気なオバサンに、もっと元気を出 もらうことだ。そしてまだまだ元 ンの姿を私の胸の中に、また多く それよりも、 (四0、二、二二) 元気だったオヂサ

福島県月館町生れ、亨年六十一才。 高橋修太郎氏、 明治三十六年十二月

辰沼広吉画

### 义 書 紹 介

#### 本 百 名 田 Щ 久 弥

著

Ħ

社の最高幹部の一人と立ち話しを 世間には隠れたわが党の士がある を味読し珍蔵しているとのこと、 の本が好きで、小鳥鳥水から木暮、 と切り出した。聞いて見ると、山 きにはぜひ改めてほしいものだ」 らしいのは全く惜しい。再版のと のさえとくらべて、写真が見すぼ じつに天下の名著と思うが、本文 だ読んだ深田さんの日本百名山は が、突然話題を転じて「このあい う山登りに縁がなさそうなこの人 した。身体はいかついが、いっこ 先どろあるパーティーで一流商 冠その他のかたがたの著書 T

思い出などを、二人で語り合うの あった。そして「名山」の資格 のは、わたくしの楽しみの一つで た「日本百名山」をつぶけて読む いては重役氏と同感なのである。 わたくしも、深田さんの近著につ ものだと、うれしくなった。じつは も楽しいことであった。 や、取り上げられた山についての 深田さんが山の雑誌に連載され

らべ、山を指さしてその風格を論 部の頂きに足跡を印している。と 山を取り上げたが、しかもその全 基準として、大体千五百米以上の さんは山の品位と歴史と個性とを じ、曾て登った路すじを眼で辿っ 読みかえしながら、著者と肩をな る。わたくしはあらためてこれを 読するには甚だ便利に出来て 真と簡単な地図をのせてあり、通 の当時の思い出にふれ、みじかい 歴史や由来や考証を説き、じぶん の多くの山の一つ一つについて、 での百座を選ぶにあたって、深田 わよく収め、頁の下部に山容の写 感想を添えて、二頁のうちに手ぎ ときを過した。 北は利尻岳から南は宮の浦岳ま いるような気になって、 楽しい い

沢岳、 ど選にもれた山のなかにも入れて 田駒ヶ岳、栗駒山、上信越では荒 海道で石狩岳、駒ヶ岳、 ほしいものが少くない。 次第は「後記」に詳しい。 山の選択には大いに苦心された 岩菅山、 東北の秋 例えば北 北アルプ なるほ

低いが英彦山と雲仙岳か多良岳を 山か玉置山、九州は私の故郷でも 山、関西では比良ケ岳と護摩の壇 であろうか。 加えてほしいと云うのは身びいき あるので、市房山のほかに高さは スの燕岳、 南アルプスの笊ケ岳、 餓鬼岳、 有明山、 七面 霞沢

上に、著者の山旅はまだまだ限り 補遺」として追加するか、さらに 来るだろうし、或は「日本百名山 れば、新たな山をのせる余地が出 曾駒ヶ岳と空木岳などを一組にす 鹿島槍ケ岳、槍ヶ岳と穂高岳、木 と間の岳、立山と剣岳、 する。現在の山のなかでも、 ある山を割愛するのは惜しい気が をするつもりと書いているが、今 わって、再版のときには差しかえ えておす」めする次第である。 なく続くものと思われるから、 だら如何。今までの数多い登山 を増して「続日本百名山」を編ん 百尺竿頭一歩をするめ、新に百座 B5版本文二一三頁、巻頭写真 山を愛する著者は落選者をいた 五竜岳と 北岳 あ

The Alpine Journal

リカ隊のエヴェレスト遠征が、 Vol. LXIX. May 1964 巻頭に一九六三年に行われたア

> どたえがある。22頁があてられて らこのアメリカ隊については、同 により述べられ、八葉の写真も見 してN・G・ディーレンファース Americans on Everest, 1963 と題 すめられているときく。 書となつているが、その邦訳もす によって編まれ、それが公式報告 とを示すものであろう。序でなが いるのも、この隊の評価が高いこ 名の単行本が、J・R・アルマン

8頁、写真4葉、 ロ・カンリは四手井隊長の報告が に述べている。また京大のサルト School-house Expedition, ウィルソンが The Himalayan 征をニュージーランドのJ・G・ リーが隊長のクーンブ地域への遠 内容をよく伝えている。 載せられ、簡単ながらこの登山の ヒマラヤの記事は、その他ヒラ 図面2によって

, 1963

毎号かわりはない。

も看過できぬものがあることも、

と並んで盛況を物語る。 写真六葉が添付されている。また 東部の踏査等22頁があてられ、ア クサラヨックの登頂、プマショ北 ルドが綴っており、ミータアやサ cabamba と題してB · ハーフィ Climbs in The Cordillera Vil-1 ど、アンデスの山登りはヒマラヤ ドイ登攀(記事12頁、写真4)な コルディエラ・ブランカ(ペルー) ンデスのけわしい山の姿を示した 記事及び写真六葉などや、ロ ジーランド隊については、 アンデスでは一九六二年のニュ

O、昭和三九年七月二十日、 版四頁、本文写真及び略図一〇

新潮社発行、

定価 八七〇円 (日高信六郎)

> 贈されたという記事にはとくに注 る。たど故G・W・ヤングの遺族 述べる余裕のないのは遺憾であ 多いものが少なくないが、 ラムの語原的説明やエヴェレスト 登山家の古い書翰などがACに寄 から、彼に宛てられたJ・P・フ の西蔵名等、僅か十行程の記述に 意がむけられる。その他、カラコ ト、スマイス、ノイスなど著名な ロリー、シュースター、ストラッ アーラー、 「アルパイン・ノーツ」欄も興味 E・ダヴィドスン、マ 詳しく

亘ってかられている。 ぬC・K・ハウアド=ビューリイ (1883~1963) のことが、3頁に 遠征にその名を逸することのでき 八一頁 追悼欄には初期のエヴェレスト T·M (本号総頁

No. 309 Vol. LXIX. Nov. 1964 The Alpine Journal

E・シプトンは、人臭くなったヒ 載せられている。 Patagonian Ice-cap の | 文 (の 卷 へ出かけているようだが、本号の 同様最近は専らパタゴニアあたり マラヤを嫌ってか、ティルマンと 頭には Crossing the North 曾てのヒマラヤのヴェテラン、 が興味深い五葉の写真と共に

ンマの初登頂がチョウ・チェンに ヒマラヤでは中国のシシャ・

クスペディショ

2

欄や

真5)ほど述べられている。 pedition, 1963 と題して4頁(写 Partenkirchen Hindu Kush Ex-ヒンズークシュが The Garmisch-また一九六三年のドイツ隊による よって述べられ(6頁、 写真4)、

ーンランド、ウガンダの岩峰(ア ロース・グロックナー、東部グリ 述べられている。 ラリア・アメリカ合同隊の登山が in The Andes の一文に、ボリヴ は見当らず、アンデスは Astray ィアとペルーへ遠征したオースト その他は、ルウエンゾーリ、ゲ 本号にはその他にヒマラヤ記事 (写真4)。

る。「アルパイン・ノーツ」欄で 岩峰の記事と写真は注目に価す クック等だが、ケニアのネリオン ミエルとルウォット)、マウント・ われるーは、モディツェ Moditse 頂、アンナプルナ・サウスとも云 (七二五六m)一昨秋京大隊が登 は、G・O・ディーレンフルトが、 アンナプルナ山群のガネッシュ

のスカルノ峰登頂についても簡単 ない意見を述べている。また日本 のは遺憾である。 か、間違ったことが書かれている インドネシア側のものであるため な記事があるが、元のニュースが マールとまぎらわしいから適当で ガネッシュはガネッシュ・ヒ

と名づけられるのが一番ふさわし

ド、サマヴェル、ペイティ、プレ ングスタッフの追悼記で P・ロイ 追悼欄で見逃せないのは T・ロ その行動を伝えている。五十七才 の吉沢一郎隊長を中心に一つの大

半に亘ってこの巨人の面影をよく 号総頁一五〇頁)。 号共A・D・M・コックス。(本 オーデルが書いている。編集は前 のことは、プレイクニイとN·E・ E・O・シェッピア(1884~1964) ポート・オフィサーをつとめた のヒマラヤ遠征で何度もトランス えられている。また一九二〇年代 伝え、写真もこのましい一葉が添 イクニイの四人が筆をとり、4百 T M

#### 針 葉樹 第十三 号

大山

部

その報告にページの大半をさいて 記録特集と銘を打ってあるとおり 三号は、一九六一年アンデス遠征 号を追うごとに内容は充実し、十 いる。主な内容は次のとおりであ 戦後三冊目の「針葉樹」である。 .岳

まれた山々の七章にわけくわしく ものの公式報告で、ヤンガヌコ峠 をめぐって▽記録▽山小屋▽部誌 地に、ププヤその一アンデス果つ 頭の山々、チョクニャコータを基 を越えて、プカヒルカ登頂、ペル 五月から八月にかけて行なわれた アンデス・ノート▽四年間の合宿 ▽一九六一年アンデス遠征記録▽ るところ、ププャその二氷壁に囲 ーからボリビアへ、オコルルニ源 アンデス遠征記録は一九六一年

> ある。 様がビビットに描き出されていて 残すププャ山群の話しは魅力的で 読んで楽しい。なお数座の高峰を 学山岳部のまとまった山登りの模

沢一郎)、アンデスへの招待 格のにじみ出た労作である。 ポートはいかにも一橋大らしい性 両隊員による経済地理学的調査レ とインディオ(中島寛)、装備、 村保)、アンデスの農村を訪ねて となっており、とくに倉知、中島 食料、梱包、行動概要、会計報告 (倉知敬)、海岸地帯のアシェンダ アンデス・ノートは、一言 争

り方について、 述べており、最近の学生登山のあ 四年間の一橋山岳部の活動方針に ついて歴代のリーダーがくわしく 一九六〇年から一九六三年までの 「四年間の合宿をめぐって」は 多くの示唆を与え (山崎安治)

定価六百五十円。 三百七十二ページ、写真多数 一九六四年十一月一橋山岳部 (東京都北多摩郡国立町) 発行

# 第十四号(一九六四)関西学生山岳連盟報告

関西学生山岳連盟編

劔尾根二峰南壁(関西学院)劔岳 めたもの。 三月までの関西学連の動きをまと 目次は黒部別山周辺(同志社) 一九六三年四月から一九六四年

毛勝谷、サビ谷(大阪府大)毛勝

谷衝立岩正面(関西学院)笠ヶ岳 から劔岳(京大)冬の飯豊山塊 から北穂高(関西大)冬の薬師岳 ノ木(大阪大)と一年間の主要な (京大) 春期双六岳、赤牛岳、針

ないことであろう。 バーの努力はなかなか真似のでき 報告を出している関西学連のメン ている。このところ毎年定期的に それぞれの角度から焦点をあわせ 大学山岳部とエクスペ ジション こと(神戸大)夏期合宿(甲南大) 目ばしい行動についてしるし、つ 大学山岳部の在り方というものに 西学院)と各題目について現在の いで、山のこと、部のこと、人の (京大) 座談会、積雪期合宿 (関

山岳連盟発行。一〇三ページ、 写真三枚、定価二百円。 一九六四年十二月四日関西学生 山崎安治

### 山 伏

岳の播隆上人、大峯山の修行者を ら言ってもどく通俗に解りやすく 復の車中は心がけていればかなり どでも読み易い。通勤や通学の往 書かれて、それに適している。 読書のはかどるものだが、内容か 活字も小さすぎぬから電車の中な る一九六頁の新書版のこの書は、 はじめ、至る処の山頂、ことに名 副題に、入峰、修行、呪法とあ 日本の山に親しむ者には、槍ケ 和歌森 太 郎 著

見て今更に私も驚いている。 心にとどめずにはいられない。そ に及んでいるか、巻末の付録表を の山頂が如何に数多く、 者達に開かれたことを、多少とも 山のそれが太古の時代、 日本全国 山伏、

山伏の活動、峰入り修行、山伏の 山の現在でも山岳信仰と全然無縁 見ない独自なもの……まさに日 記されている内容は、 組織化、定着山伏の実態と六章に のたしなみでもあろう。 伝統を知ることは、登山者の一つ ではあり得ないのだ。その歴史、 本民族的存在………をよく語って 山伏の印象、山伏の起り、中世 日本の山は、いかにスポーツ登 世界に類を

野と研究によって成ったよい本で 点もありはするが、ともあれ常識 ある。愉しみながら読める。 として山伏を知るために、広い視 も少しつっこんで書いてほし

(村井米子)

北

年が私を訪ねて、最近山で亡くな 伊藤秀さんの紹介状をもった一青 頃、この遺稿集が刊行された。 た。そして私がそのことを忘れた 二、三の質問をうけたことがあっ つた弟さんの遺稿集を出すにつき まだ札幌にいたころの或る日、 凉 武 遺稿集一

原武君は昭和三六年四月九日鹿

いる。 両氏の紹介でJACにも入会して 五年九月には山崎安治、石岡繁雄 名古屋大学山岳部々員で、昭和三 崩落によつて墜落し亡くなった、 島槍北壁を登攀中雪のブロックの との遺稿集は菊版四七〇頁の分 (会員番号五一七七)。

幾つかある。先輩友人等の追悼録 部カラー)にも、すぐれたものが 他遭難報告について実兄原真氏 委員会) 日発行、定価一五〇〇円北壁編集 を附け加える。 プ」二月号に載せられていること お本書の稍々詳細な紹介が「アル が別冊として添えられている。な 〇頁に亘つてあらゆる角度から述 譜、山歴、蔵書目録四三頁、その 五〇頁、創作、詩篇が三五頁、年 の序文、一九五四年以降の日記が おどろくことである。深田久弥氏 文章としては、かなりの分量であ 容は僅か二二歳で亡くなつた人の い。故人による遺作写真15葉(一 も立派なものである。且つその内 べ、この部分にも価値が少なくな 一三〇頁、紀行、随筆、書簡が一 (本会員)はじめ関係者数氏が七 読むに堪えるものであるのは (昭和39年7月10 (望月達夫) ある。

#### 私 の草 木 漫

坂 本直 行

著

著者が連載した小文と草木のスケ 海道の岩田醸造のPR誌「紅」に との小型の可愛らしい本は、 北

> 造 7月 札幌市大通西六丁目岩田醸 こやなぎ、ふき、などからはじま 教えられるところも少なくない。 文章をもってえがかれている。 特の味のあるスケッチと風格ある ローカルな部数の少ない出版なの たのしい読み物であるとと共に、 って七一種が、坂本さんらしい独 ッチを、一冊にまとめたもの。 一〇頁 定価五〇〇円 筆した次第。(A6版、布装二 知らない仁も多いと思い敢て 紫紅会発行 昭和39年 ズ中の一冊である。

厚な、また装釘、

紙質等本として

望月達夫

## 訪問親善登山隊報告書 九六三年度中華民国

日本山岳会静岡県支部

誌、予定表、記録のほか台湾印象 価、台湾の農業と植物雑感などが はじめに帰国した報告書、準備日 台湾省一周を終え二月末から三月 大覇尖山、新高山(玉山)に登り 昭和三十八年一月十六日出発、 台湾に行くには、台湾の物

山で発生した一名の負傷事故につ ことは不幸中の幸いというべきで ける適切な治療により好転を見た ターによる救出、空軍総医院にお いて述べているが、空軍ヘリコプ また医務関係報告には、大覇尖

昭和39年6月1日発行(南ア国立公 タイプ印書、全四十八頁 園指定の日を記念して) F

> 携行の便を考慮した案内書シリー ピニー 白 アルパイン・ガイド48 ルカバーの表紙、 馬 小野 尚

本は、 種なコースについては触れていな いるが、初心者を対象としたこの も、むろん要領よくまとめられて 程表も、そのほか施設等の一覧表 りやすく説明している。地図も行 入れて夏の白馬岳を美しく、わか 会員小野尚俊氏は写真を豊富に 「夏山」ながらも困難な特

どかなりくわしく説明しているの あるが、「山登り」は家を出てか もこの著者らしいところである。 大糸線の旅と題して山麓の風物な ろを押えているのはよい。 い。とかくペンが外れがちなとこ 最近は山がかけ足になりがちで またはじめに白馬登山の歴史や

者に教えているようである。 三九年七月一日、山と渓谷社発行 一二六頁、一八〇円

当り前のことを、自然に本書は読

ら帰るまでがそうだという、ごく

### 樹 十三号

針

または左記あてご連絡下さい。 円、〒百円)ご希望の方はルーム 新宿区戸塚一ノ五四〇、 ルームで頒布中(割引価格六百 夫方、一橋大学山岳部 蛭川隆

## 俊 軽量で 著

### 会 務 報

十一月理事会 五日・ルーム

田村、武藤、松田、 折井、辰沼、山崎、古沢、金坂、 神谷、望月、加藤 ▽出席者、松方会長、理事、深田、 評議員、日高、

11年次晩饗会開催について れた高野鷹蔵名誉会員を偲ぶ遺 尚会場に於て九月二十八日逝去さ 館又は厚生年金会館を予定する。 墨、遺品展をする。 ・十二月二日 (水) 会場は茗渓会 △議事及報告 (委任) 梶本理事、 松本理事

(3) 本会六十周年記念について 山審議委員会に審議を依頼する。 ウラギリー一峰)等につき、海外登 計画(東大カラコルム。)静岡大 (2)海外登山について 越後支部(カンチ山塊)北大(ド ・明年一九六五年は創立六十周年 千葉大(チョーバヒマール)同大 ア)東薬大(ランタンヒマール) ・一九六五年春~一九六六年春の (ペルー)、東海支部(マカルー)、 (カラコルム)、神戸大 (ボリビ (チューレンヒマール)、中央大

## 辰 沼 広 吉

員に委嘱し準備をする。 4)学生部について 五千円也補助することにした。 ・年報発行につき、本会より壱万

(5)日本ネパール文化協会発足につ することになった。本会々員有志 ・日高評議員が会長を引受け発足

いろのろん

4.7

の後援依頼があった。

## 十二月理事会

三日・ルーム

①四十年度役員について ▽議事および報告 沢、田村、山崎、 理事辰沼、 ▽出席者、 監事松本、東京支部芳野 村木、武藤、松田、 松方会長、渡辺副会長、 評議員吉沢、 神古

する委員として島田巽、藤島敏 ②六十周年記念事業について 月の理事会にはかる。 専任理事も決定する必要あり。 理事に戸野昭氏を依頼する。経理 ・六十周年記念事業委員長を決定 ・新理事候補に島田巽、 神谷恭、田辺主計、日高信六 会報担当

③日本山岳会海外登山審議会につ 京だけでなく全会員にわたる行事 会を設ける。東京だけ設けるが東 依頼、委員長を決定して実行委員 郎、早川義郎、望月達夫の各氏を にしたい。 (松方)

支部、東薬大、大阪大、北大の四 通じ体協に申請した。 隊合計二万三千ドルを山岳協会を ・十月十五日審議会を開き、東海 に当るので、事業委員を適当な会

③海外登山について

四十年度体協国際スポーツ外貨

④夏山診療所について報告 (田村)

⑤又部省主催山の遭難対策協議会 について

## 一月理事・評議員会

原東京支部長 井、青木、加藤、 木下、高橋理事、神谷、日高、 古沢、松田、折井、田村、村木、 副会長、山崎、川上、深田、辰沼、 松方会長、三田・渡辺 望月評議員、 十四日・ルーム

▽議事及報告 委任、交野、織内、野口、

①エヴェレスト登山計画について

昨年六月NHKで後援したいと

と決定、以上の様な事情で当初の 政府補助に関しては年末に八百万 理事長と会見する事になつている も未決定、松方会長がNHK前田 局内で検討中、毎日新聞社の場合 の事であつたが具体的でなく現在

務省、文部省にも依頼している。 募金を考えなければならない。外 資金予定がくずれて来たので一般

業協会二階、会費、壱千円、 〇本会主催の歓迎会一月十八日 ィレン・ファース氏来日について ②アメリカ・エヴェレスト隊長デ (月) 午後六時~八時、場所、 JAC(技術研究と海外登山)岳 部分をはずして 〇従来の運営細則 連(団体、一般登山の啓蒙)この

国際文化会館 委員会を中心とした座談会、場所 〇一月二十日(水)エヴェレスト 日本山岳会、毎日新聞社後援 ヤマハホール、午後六時、主催、 〇講演会、一月十九日(火)場所

> ル、これは体協が大蔵省に説明す る時この範囲がよい。 〇日本山岳協会として二万九千ド

十六日二時よりJACルームにて 貨合計四万二千ドル外貨の枠から 山岳会四隊、岳連二隊計六隊、外 は十八日体協に報告 連の二隊は調整の必要あり、 行う。本会のは調整してあるが岳 はみだすので再調整が必要、一月 山岳協会に提出された隊は日本

岳協会海外登山審議委員会委員と 委員長、日高信六郎 相談役、槇有恒、今西錦司 〇日本山岳協会総会に於て日本山 して決定した委員

入沢文明 正、村木、望月、吉沢、渡辺兵力、 小原、梶本、加藤泰安、金坂、 委員、伊藤久行、今西寿雄、大塚、 沼、中野満、深田、三田、三輪芳 喜田二郎、古原和美、島田巽、辰 Ш

告、山崎理事 ④日本山岳協会総会についての報 事務局、高橋照、山崎安治

推薦状を発行する

盟団体としてアマチュア登山の一 を目的とする 業及び国際的事業を遂行すること 切を統括し登山に関する全国的事 第四条 本協会は日本体育協会加

成するため必要に応じて次の事業 第五条 本協会は前条の目的を達

一、正しい登山の普及に関する企

画及び指導

二、登山技術の向上に関する企画 三、山岳遭難の予防とその対策に

五、海外登山に関する計画の審議 関する企画及び指導 国民体育大会登山部門の主管

⑤山岳会六十周年記念行事委員 必要な事業 六、その他目的を達成するために 委員長、島田巽、早川義郎、藤

嘱することに決定 主計、日高信六郎、以上諸氏に依

会で検討する。 うかどうか本会登山技術研究委員 日本山岳会として主務として行

アマゾン遠征及び千葉大に対する 〇同志社大南米ペルーアンデスー 行について 遠征について会からの推薦状の発 ⑦スポーツ外貨の枠外による海外

方が好い 〇山岳会として推薦状を出す以上 遠征隊に対する推薦状を発行する 会として注意すべき条件はつけた 〇甲南大学山岳会第一次ヒマラヤ

# 二月理事・評議員会

望月、 古沢、山崎、川上、田村、武藤、 副会長理事、 松田、評議員、日高、藤島、加藤、 マ出席者、 村井、吉沢、支部、 松方会長、三田、渡辺 深田、折井、辰沼、 四日・ルーム 中田富

島敏男、神谷恭、望月達夫、田辺

⑥日本山岳協会主催登山技術研究

⑤静岡岳連 (トウインズ) ④大阪大 (p29)

⑥富山岳連(ティリチョ)

③エヴェレスト登山計画について 本格的な準備は現在余り進捗して あり、適任者を推薦する事にする につき本会からも講師派遣の依頼 何登山指導者研修会について 二月二十六日~三月一日

東京支部長、 山支部長、牧野静岡支部長、石原 招倉委員、 中世古東

▽議事と報告 ①新年度理事推薦につい

7

推薦したい、尚東海支部からも推 各支部からも就任願うことを考慮 申出あるが三氏の他は留任願うと を担当願える適当な会員があれば 薦の意向があったが具体的に業務 して新に飯野・大塚・宮下三氏を 岩佐・古沢・高橋理事の他辞任 と云う事で通知が有り了承した

(交替については中世古委員より

②山岳協会連絡事項 **们昭和四十年度海外登山外貨枠決** 

②北大(カンジロ ①JAC東海支部(マカルー) 000弗

③東京薬大 (ラン・タン・リ) 000弗 五〇〇弗

五、〇〇〇弗 000弗

二九、〇〇〇弗 五〇〇弗

NHKの決定待ちと云うことで 富士山吉田五合目附近にて開催

④山岳五十九年の発行について 三月中には発行出来る見透しが ○タイタック追加発注の件 〇婦人部合同遠征の件 る。(現在インド側具体案を問合

ついている

⑤東海支部役員の交替について より昭和四十二年三月三十一日迄 部長藤森元夫氏 任期は昭和三十九年十二月十日 新支部長、石原国利氏、 新副支

合に依り辞任につき副支部長野口支部長永井清一氏は健康上の都 支部長永井清一氏は健康上の⑥大分支部長辞任について 説明あり) 秋人氏が代行することになったの でこれを了承した

# 東京支部会務報告

○8ミリ映写機購入の件 十二月九日役員会

〇十二月集会の件 として映写機を購入する。 封のど送金があり、これを一 故篠原敏弘氏御遺族より金 部

準備する。 者四十五名位の見込。婦人部 四十五名位の見込。婦人部で『クリスマスの集い』は参加

○事務局員慰労金募集の件 があり、婦人部で準備をすすめ 女性の合同ヒマラヤ遠征の計画 例年通りご協力願いたい。 インドより三田氏を通じて、 (一口百円)

れたので、更に百個追加発注し のタイタック三百個は全部売切 七月に作成したJACマーク

出席者 =第 10 回= 今回は第十回記念講習会のためも 〇会員名簿作成 長の巡回視察等もあって、などや 指導もよくゆきとどき、沼倉委員 況であった。前回に比して雪の量 あってか、募集定員を上まわる盛 同じ山田温泉スキー場で行った。 若を問わずひろく会員の参加を切 う。今後もこうした機会には、 の楽しさを倍増出来るものと思 け、それを応用してこそ山スキー 遠することなく、進んで身につ り基礎スキーを身につけるべきと を危険なく楽しむためには、やは 醍醐味と云えるが、その山スキー いものである。まさに山スキーの む頃、山から山へのツアーは楽し り、ダケカンバの芽が赤くふくら であった。 また非常に楽しく、意義あるもの 念して、運動会を催したが、これ た。最後の日は第十回講習会を記 かな申し分のない講習会であっ 招倉、 西丸、 これから春の陽ざしもながくな 第十回スキー講習会は、 成した段階である。 (監事) 折井 (評議員) 網倉 東 現在約半数の会員カード いたずらに基礎スキーを敬 スキー 京 小味、 関口、 天候もよく、 支 事 ·講習会 野萩、 の件 部 安 君島、鈴木郭、 彦 山山 各班講師の 六 以上 郎 を作

店 た津村順天堂(株)、片桐運動具 役員諸兄姉の労に厚くお礼申上げ 店(株)、山晴社(株)、茗渓堂 に、感謝の意を表し、併せて講師、 藤元一、関 回の記念講習会にご協力頂 平岡商店(株)、細野天幕 関口周也、鈴木郭之、 カトウ運動具店(株)

贈者

者

左左者者

者

左

左

者

繁雄

繁雄

武-

達

者

左者者左者者

左

寄

著

同

著

著

著

著 朝日新聞社

増田

増田

交野

神原

著

同

著

著

同

著

著

同

役員会議事録(7月23日付)が送られ どうかと云つてヒマラヤン・クラブの

参加者、 渡辺 第十回スキー 中 石原達夫はか八二名。 抜井俊男、安彦六郎。 保、富田美知子。 講習会を

君島久登、加藤一二、

#### 石 原 達 夫

受けて

しくも上級のクラスに入ったので習は受けたことがないのに厚かま 派手なものでまた結構でございま より、自己流の悪い癖が少なくな した。私、今まで正式のスキー していましたが予想に反し明るく すと何か渋い地味な感じを連想 すが講師の先生の熱心など指導に 山岳会のスキー やはり講習会は良いものと痛 講習会と申しま 講

位にして頂き度いと存じます。四から日数が短いと存じます。四 から感謝いたします。講師の諸先生方、幹恵 ます。今後もお続け下さる様お願 善のためにも非常に有意義と存じ 動会は今回限りとの由、 方もお疲れかと思いますが、それ 方々と私共講習生との交流が少な 頂きますと、帰宿してから講師 かったのは残念と存じます。 感させられました。 さらに二三注文申し上げさせて 致します。最後になりましたが、 幹事の方々に心 相互の親 先生 運 日

(和書) 39 年 3 月-12月 寄 贈 义 書 著 書 名 発行所 忘れえぬ山山 書 田 第 歴史の山と高原の旅 茂 物往来社 日 本山 岳 슾 ベース・ボールマガジン社 Ш 芳西 赳震 図解コーチ 冬 野 夫 美堂書店 哉 丸 未知への足入れ 創 元 社 山に生きて 菅谷達郎追悼文集 マックス・アイゼリン 横 川 文 雄 訳 第二次 R.C.C. ダウラギリ登頂 ペース・ボールマガジン社 同 登攀者一積雪期登攀記錄集 山と渓 谷社 サルトロ・カンリ 京都大学学士山岳会 日 新聞社 行 田島勝太郎 昭 文 堂 キャムピングの仕方 と其の場所 **実業之日本社** 文部 甲 見 山へ開く窓 勝 堂 堂 土 居 彦 磯 陽 あの山この山 京都大学山岳部 インドラサン登頂 河出書房新社 木今 越中立山古文書

信二 立山開発鉄道KK 豊 雄 同 信 社 佐 助 毎 日新 聞社 北壁編集委計 武 宏 年 克 敏 敏 しんつくし山岳会 を述べよう。 てきた。それで二、三興味をひく事項

倉井 尾 田 林 石 た由。また25巻も明年一月中には刊行 六四年)は既に刊行され、発送を終つ ▽ヒマラヤン・ジャーナル2巻(一九 暫らく遅刊をつづけたHJの刊行

1) Ang Tshering or Shering(Khu-▽新たに次の六名のシェルバにタイガ れに応じて欲しいものである。 依頼があるようだから、できるだけそ 喜ばしい。日本の各遠征隊へも寄稿の が、ややスピードアップされたことは バッジが興えられる。

Girmin Dorje registered Choetari (Namche) mjung) H.C. No. 203 Nima Dorje H.C. No. 229 Cheney's register No. 157 as on

3 2

4

中

原

福

平

立

6) Phu Dorje (Khumjung) Nawang Dorje (Khumjung) Ang Nyima (Khumjung) - " -Not registered - "-

高原風物誌

北

ヒマラヤの花

パルン氷河紀行

5

サイバル登頂

九州の山

壁

中であり、同クラブとしても所蔵のシ ェルパに関する記録を提供することに 詳細な記録を一冊の本にまとめる準備 ▽J・O・M・ロバーツがシェルバの ロバーツは永くネパールにあって自

り、本文二二四百行された。意匠、 け、この本には大きな期待が寄せられ う仕事をする最適任者と思われるだ らもヒマラヤをよく 知つておりこうい 関係者の努力で、 Щ 日 記 今年も旧年中に刊 九六五年度版

本文二二四頁、

内容はほど例年どお 執筆者に多少の異

Ł マラヤ · = 2 1

受けておられる三田さんから、会報に 日本のローカル・セクレタリーを引 ス

程 语	雪期登 校生登	山枝	所者講習会 所者講習会	35~36 報告	書日	本山岳	会 日	本山台	岳 会	1	同	左
esata				図書(雑誌名	(本	39 年	3 月~	~40 年	2 月	_		
	書	:,	名			発 行	所			* **	所贈	者
	出岳部		第 8 号			大山				同		左左
ろ山	ば	た岳	VII 52 • 53	1. P. W.		大山本山				同同	左	2組
щ	"	ш	55 • 56			"				,		3組
	"		57 • 58			"					,	3組
山	と渓	谷	289~291 292~294		山	と渓	谷社			同	"	左
山	と高	原	316~318		朋	文	堂				"	
	. "		319~321			1 100	A AL				"	web .
^	イカ	7	87~91		山	と 渓 京中日第	谷社			. 4	"	*41
缶	727	人	177~179 180~182		果人	кт <b>п</b> л	列四九				"	
	,		183~185			. ",					,,	
	,,		186~189			,,					"	
気	~	象	32~68		気	象 节	協 会				"	
ア	12	ブ	59~64		創	文	社				"	
	,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	-	65~70		, And	"	1.1.				"	
	葉	樹	No. 13			喬大学-	205.1.	5 to				

講場師所 日時 ふるってご参加下さい。 切りますから早目にどうぞ。 ムに用意してあります。満員次第締 定員 三〇名 なお、詳細および申込用紙はルー 五月十五日(土)~同十七 四、〇〇〇円(会員外四) 出発十四日(金)午後十 金坂一郎氏ほか 南アルプス北岳大樺沢 日(月)三日間 五〇〇円) 時、帰着十七日午後九時

昭和四十年二月二十五日発行 頒価二十円 発行所 編集者 前三ノ三一 外苑コーポ内 東京都渋谷区神宮 東京都港区赤坂溜池五番地 振替口座東京四八二九番 電話(松)六、五〇一~五 日本山岳 古

肇 会

登山技術講習会 東京支部

左記により開催いたしますから

(二三六号訂正) 台湾親善の旅から

11頁2段、十二日、玉山(新高山)登頂 頂の誤りでした。

No Received 誤 10471 10464 H.W. Tilma H.W. Tilman 10475 10465 C.G. Egler (三三六号) 10477 Trewker ハウストン文庫目録正誤表 Reoccu-pied Srory Othres C.G. Egeler Story Reoccupied Trenker Others

完一、発行所株式会社茗渓堂、定価 昭和四十年一月一日発行、編集皆川 三百五十円。

りが見られるのは楽しい。 うかがわれる。磁針の偏差、水の沸点 お頒かちしているので、せいぜいご利 和三十八年)まで毎年歴史の幅の拡が から、同四日バルトロカンリ登頂(昭 かれた。日記欄の年表記入を見ると、 山植物図譜(山下一夫氏)が巻頭にお はなっていない。写真がなくなり、高 いてブックジャケット一枚でも無駄に と高さ気圧の関係表などが印刷されて 動があって、その年々の編集の苦心が 用願いたい。 八月八日のモンブラン登頂(天明六年) なお例年会員にはルームで一割引で

印刷所

株式会社

技